

桜島地方水平歪および重力変化について *

国土地理院

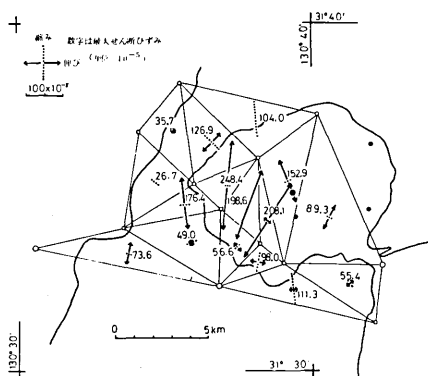
桜島地方水平変動ベクトルについては前号で紹介したが、今回はこの水平変動ベクトルから求めた水平歪について述べる。

第1図。第2図は明治31年と大正3年桜島噴火直後の桜島およびその周辺部の水平歪である。桜島では南北方向の伸びが卓越し、 2.4×10^{-3} に達するものがある。・印の点は再設等のため水平歪が求められない三角点である。

第3図は大正3年桜島噴火直後から昭和44.45年までの水平歪で、桜島噴火口列およびその延長線にそって最大せん断ひずみの大きいものがみられる。・印の点はこの間に再設等のため水平歪が求められない三角点である。

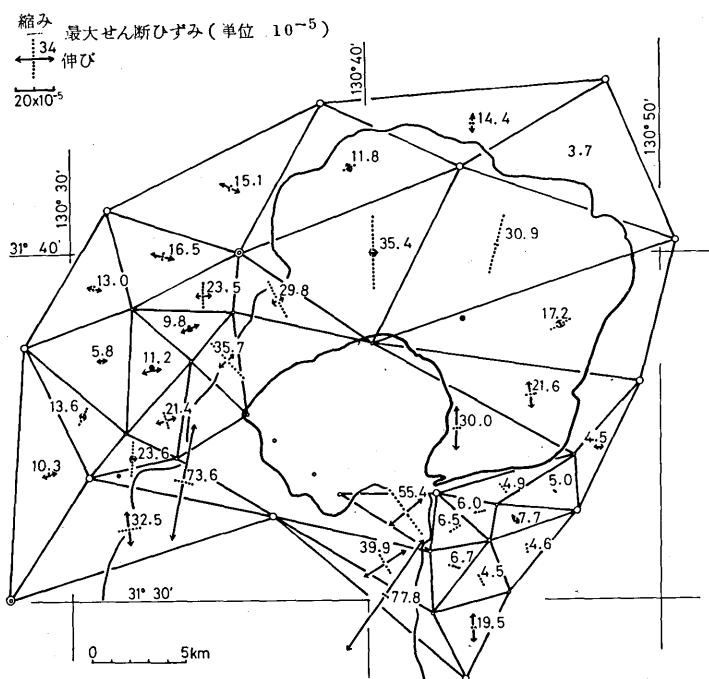
第4図。第5図は第1回目(明治31年)と第3回目(昭和44.45年)の間の桜島およびその周辺部の水平歪である。

第6図は鹿児島一鹿屋間の水準点上の重力変化を示す。前後の測定が同一地点で行なわれているのが少なく、また隣合った点の間でも不規則な変動が多いが、B.M.2488~2490にかけての急激な変化、桜島の京大B.M.35~38の延長線上にあるB.M.2496.2497の変化、B.M.2500附近の変化などは垂直方向の変動との関連を追及してみる必要があろう。

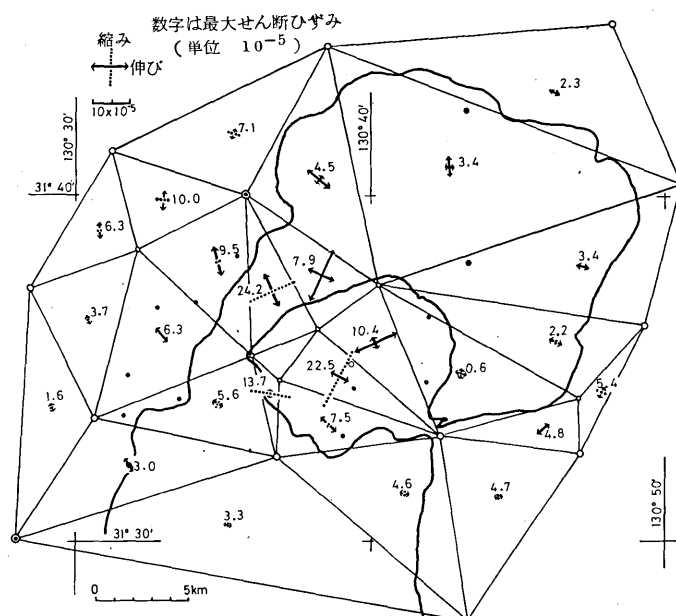


第1図 桜島 水平歪(1914~1895)

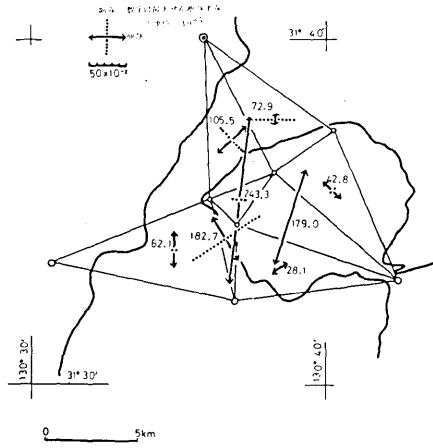
* Received Apr. 10, 1975



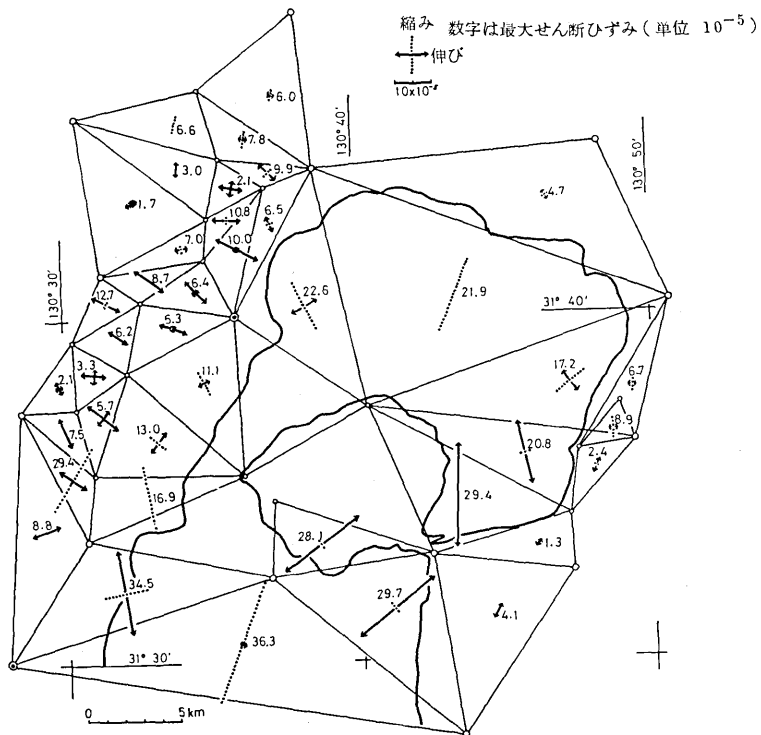
第2図 桜島周辺部 水平歪 (1914-1895)



第3図 桜島周辺水平歪 (1970.69-1914)



第4図 桜島 水平歪 (1970.69~1895)



第5図 桜島周辺部水平歪 (1970.69~1895)

